2013年12月10日（火）　建設速報

膨大なコンクリ構造物の効率・効果的管理へ

診断士や地元企業の知見活用を思案

県コンクリ診断士会が技術セミナー開催

県コンクリート診断士会（地濃茂雄会長）は3日、25年度技術セミナーを新潟市内で開催した＝写真。セミナーには会員の施工業者やコンサルタント業者、生コン製造業者および自治体職員らが参加、コンクリート診断士の知見を活用した他県での先進的な取り組みを確認するとともに、安全・安心な生活を支える膨大なコンクリート構造物の効率的・効果的な維持管理体制の構築に向けて考えを巡らせた。

冒頭のあいさつで地濃会長は「脆弱な国土の中でコンクリートは欠かせないものだが、コンクリートから人へという理解し難い政策を経て、技術者不足や入札不調といった大きなツケがまわっている」と指摘。その上で、「技術者がものづくりをしっかりやっていかなければ、国土保全および大事な国民の生命を守ることは難しい」と強調し、コンクリート診断士の責務の大きさと技術研鑽の必要性を訴えた。

セミナーの基調講演では、「全国のコンクリート診断士会の動向」と題して、㈱セメントジャーナル社編集部の吉田航氏が解説。日本コンクリート工学会（JCI）が実施しているコンクリート診断士制度の概況や日本コンクリート診断士会の活動状況を説明したほか、先進的な取り組みとして、福井県発注業務でコンクリート診断士資格が要件化されている状況も提示。要件化に結び付いた要因として、講習会への講師派遣や技術支援など自治体との協力体制づくりを指し示した。

続いて、「コンクリート構造物の変状」と題して、県コンクリート診断士会の伊藤司郎副会長が基調講演。コンクリートの損傷は▶初期欠陥、▶経年劣化、▶構造的損傷（地震、衝突、火災等によるもの）―の3つに大別できるとし、変状するコンクリート構造物の現場写真をスクリーンに映し出しながら丁寧に説明した。

さらに「インフラの老朽化を考える（パートⅡ）」をテーマとするパネルディスカッションには、伊藤副会長をコーディネーターに県土木部技術管理課の宮野岳・工事検査室長や吉田氏をはじめ、会員4名が参加。本格的な維持管理更新時代が到来する中で“専門技術者・技能者の養成”および“経済的な新技術の開発”の必要性を再確認。加えて、コンクリート構造物の点検について「定期点検要領にもとづく点検は完全なものではない。それを補う技術が必要」「外側からだけでは損傷の原因がわからず、施工の段階になって新たな損傷が確認されるケースがある」として、維持管理分野ならではの対応が必要といった意見が挙がった。さらに、維持管理において、地域の実情に精通している地域密着型企業の活用を提案する意見も挙がった。

また、パネルディスカッションでは、会場の参加者とも意見を交換、市町村が管理する膨大なコンクリート構造物の効率的・効果的な維持管理を思案した。